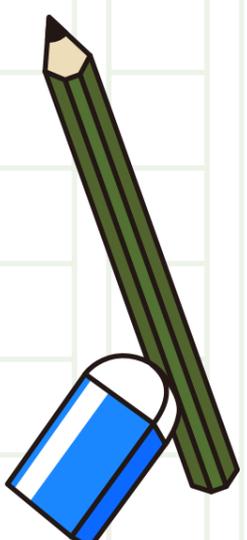


「空気」

松竹景虎



情報社会である現在、私たちには毎日膨大な数の情報が流れってくる。その情報を受け取る手段は例えば、テレビのニュースだったり新聞であったりするが必ずといっていいほど目にする記事がある。それがいじめ問題だ。

「中学の男子生徒が・高校の女子生徒がいじめにより自殺しました」などという事件が起こるのが最近あたりまえと思う人が増えていると思う。それを感じるたびに私は人間の「慣れる」という特性に恐怖してしまう。初めてニュースで自殺の記事を目にした時のことを思い出してみよう。おそらくほとんどの方が衝撃を受けたと思う。その時の感情を常に心においておけば、いじめはなくなるはずである。しかし、それだけではなくなっていくのがいじめの恐ろしさである。そう、もっと他の思いもよらないところに原因があるのではないかと私は思う。それをいう前にいじめの加害者の気持ちを想像してみた。いじめをするメリットなどないと私は思っているからだ。主な理由は二つほど考えられる。

まず一つ目、いじめという行為が楽しい。これはクラスでいじめについて話し合った時に一番最初に出てくる意見だ。「相手の反応がおもしろい・そいつが気に入らない」などが、よく補足としてつけ足される。もしこれらの考えが正しければ、私はいじめ加害者の将来が心配になる。人を痛めつけることでしか快感を得られないのならば犯罪をしてしまう可能性が高いと思う。他人のことを考えずに自分の利益を優先しているからだ。このてのいじめ加害者は恐らく、自分がその苦痛を知ることではかやめないだろう。

二つ目は、周りの友達に合わせているからだと考えられる。周りの友達に合わせるとなぜいじめが発生するのか。例えば、友達から「あの人嫌い。あなたもでしょ?」と言われたら「いいえ」と答える勇気があるだろうか。そうほとんどの人が自分が嫌われないように生活しているのだ。さきほどのような会話が数人の間で成立してしまえば、いじめが発生してしまうのだ。もし少しでも友達嫌いな子に優しくすれば、そのことを責められ、今度は自分がいじめの対象になるのではないかという不安と恐怖にかられる。その連鎖がおこるから、周りの人に合わせるといじめがおこる可能性があると思う。

もっともたちが悪いのは後者の方だ。なぜならいじめが完全に終わることがほとんどないからだ。対象者は移り変わってもいじめは続く。

では、いじめの原因は何かを伝えよう。それは「空気」だ。空気というのは雰囲気などの方の意味だ。これが目に見えないものだから恐ろしい。いじめをしなければ自分がやられてしまうという空気、いじめに参加しないとけない空気。そう、いじめの加害者・主犯でさえも空気によって動かされているのだ。

この問題を解決する方法はただ一つ……。みんなが親友になることだ。今、こいつはバカかそれができないからなくならんのだらうと思っただらう。でも同時に笑わなかったらうか。そんな簡単な発想かと。そう、実はすごく簡単なはずなのだ。そこに自分の損得が介入してくるから上手いかない。人の笑顔は人を笑顔にし、その笑顔がまた別な人を笑顔にするとと思う。世界から笑顔がなくなれば間違いなく世界は滅ぶだらう。僕の好きな歌にこういう歌詞がある。「空気なんてよまずに笑つとけ、笑顔笑顔、笑うかどには福来る。「暗い顔をしていてもいいことは起こらない。いじめの加害者は本当にごめんと一言言えば必ず許してもらえらう。人からの情報を鵜呑みにしてはいけない。偏見やおくそくだけでその人の性格を決めつけるのはよくない。笑顔で話さなければ相手の性格はわからない。

学校で習う数学の公式や英単語を忘れても笑顔の大切さだけは忘れないでください。



※作文は原文に基づいて作成しています